



日本を護る会 レポート

令和 元年 6月

第 35 号

理事長挨拶：

令和の御代になって初めてのレポートをお届けします。

30年間の平成の御代が終わり、令和の御代になりましたが、現在我が国周辺も含めて世界は激動の時代を迎えつつあるように思われます。朝鮮半島、米中対決、中国の進出に関連しての香港、台湾、米・イラン関係を含む中東、英国・EUを含むヨーロッパの各情勢等、我々が重大な関心を持つべき問題が山積していますが、このような状況において我々は国内外の情勢をどのように認識すべきなのか？を迫り、4月4日(木)には航空幕僚監部の広報室長である渡部琢也 1等空佐を講師にお迎えして「新たな防衛大綱に基づく航空自衛隊の取り組み」と題した講話をして戴き、現下の情勢における我が国の空の護りの実態について同1佐の体験を交えて、現場からの貴重なお話を伺いました。我が国防衛の実態と展望について理解を深めました。

次いで6月6日(木)には頭山興助呉竹会会長から「歴史的経緯に基づく中国の本質—日本は中国とどう付き合うのか—」と題した講話をして戴き、我が国が歴史的深い関係にある中国という社会の本質を理解しつつ、同会長が園田直衆議院議員の秘書として日中関係に携わった貴重な体験に基づくお話を伺い、今後益々重要になって来ると思われます我が国と中国の関係についての誠に有意義な示唆を得る事ができたように思われます。

以上2回の定例会の後は何時ものように講師を囲んでざっくばらんなお話の輪が広がり、誠に楽しく得難い集いとなりました。

「日本を護る会」は皆様の忌憚ない御意見等を戴きつつ、設立趣旨に則って活動を充実させて行きたいと思っておりますので、今後共引き続き、御支援、御協力の程をお願い申し上げます。

理事長 大橋武郎

第81回定例会

演題 「新たな防衛大綱に基づく航空自衛隊の取り組み」

講師：「防衛省航空幕僚監部 広報室長 1等空佐 渡部 琢也 氏

平成31年4月4日(木) 18:30～ 於：銀座カフェ・ジュリエ



講師略歴：

千葉県出身 51歳 戦闘機パイロット(F-15)

平成 3年 3月 防衛大学校卒業 (第35期)

平成 7年 2月 第8航空団(築城基地) (F-15)

平成 14年 3月 航空総隊司令部(府中基地)

平成 16年 4月 第2航空団(千歳基地) (F-15)

平成 18年 4月 航空幕僚監部防衛課(市ヶ谷基地)

平成 21年 4月 第4航空団(松島基地) (T-4ブルーインパルス)

平成 27年 8月 第6航空団飛行群司令(小松基地)

平成 29年 8月 航空幕僚監部広報室長(市ヶ谷基地)

1 我が国を取り巻く安全保障環境

(1) グローバルな安全保障環境

現在の世の中は、パワーバランスの変化に伴い、国際社会の多極化が進展し、経済・軍事的手段から、ソーシャル・ネットワークまで、あらゆる手段を用いて行われる国家間の戦略的競争が顕在化しています。これにより、グレーゾーン事態が常態化し、軍事力を用いた武力紛争に急速に発展するリスクが増しています。また、国家が主体か不明な事態が生起し、これに対する国際法が未整備であるため、ハイブリッド戦と呼ばれる新たな戦闘様相が生まれました。

(2) 我が国周辺の安全保障環境

北朝鮮の軍事力は、韓国軍及び在韓米軍に対して通常戦力では著しく劣勢にあります。北朝鮮は、これを補う観点から、核・ミサイル、サイバーなどの能力を強化しています。日本政府は、このような北朝鮮の軍事動向は、我が国の安全に対するこれまでにない「重大かつ差し迫った脅威である」と認識しています。

中国は、兵器の近代化に合わせるように、尖閣諸島周辺のほか、日本海及び西太平洋における活動の定例化を企図しているとみられる海空戦力による活動範囲や頻度を拡大させ、一方的にエスカレートさせています。こうした中国の軍事動向等については、国防政策や軍事力の不透明性とあいまって、我が国を含む地域と国際社会の安全保障上の強い懸念となっており、今後も強い関心を持って注視していく必要があると考えます。

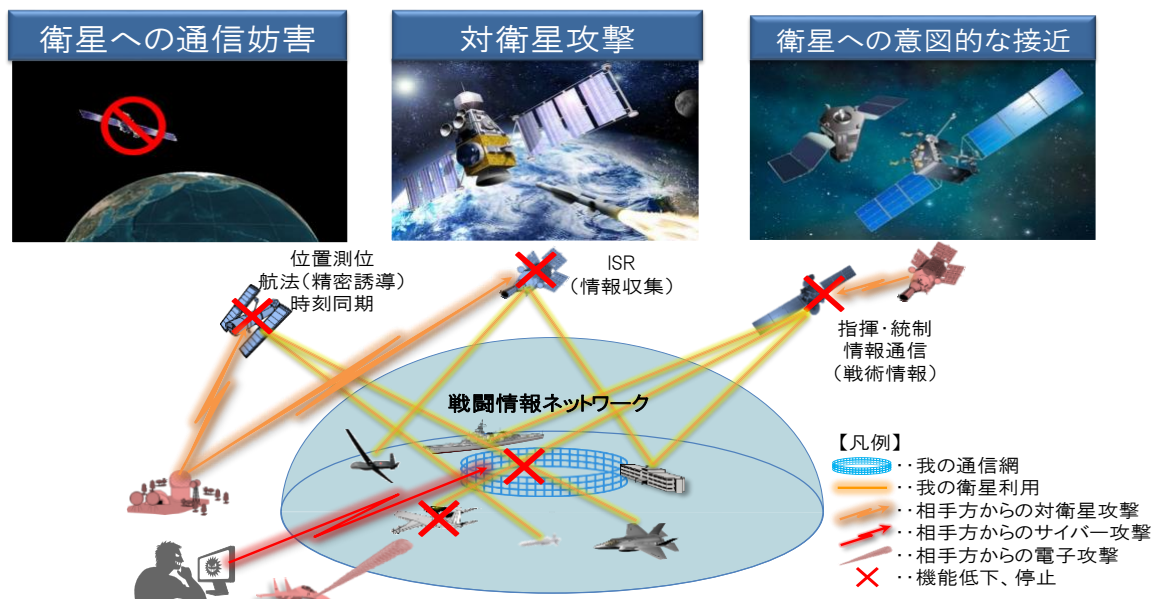
ロシアは極東においても核戦力を含む各種装備の近代化を進めており、北方領土及び千島列島における軍備も強化するなど、軍事活動を活発化させる傾向にあります。特に、昨年10月に開始した、択捉島におけるSu-35の配備に関し、我々は注目しております。

2 航空防衛力が直面する課題

(1) 宇宙・サイバー・電磁波領域における脅威

宇宙・サイバー・電子攻撃等による私の戦闘情報ネットワークに対する攻撃(妨害・無力化・破壊)

【宇宙・サイバー・電磁波領域における攻撃のイメージ】





(2) 同時・複合的な弾道・巡航ミサイル脅威

弾道ミサイル、巡航ミサイル等による同時・複合的な攻撃の脅威

○ 巡航ミサイルの質的・量的拡大

誘導技術の進展等により、巡航ミサイル等*の長射程化、自律化、精密性の向上に加え、弾道ミサイルに比べて安価であることから、大量生産も可能となり、巡航ミサイルによる質的・量的な脅威が顕在化

* 巡航ミサイル等：巡航ミサイル及び対地・対艦ミサイル

○ 戦闘機の質的・量的拡大

周辺国における第5世代の実戦配備(質的向上)及び第4世代機の増勢(量的拡大)

○ 飽和攻撃の脅威

弾道ミサイル及び巡航ミサイルによる飽和攻撃

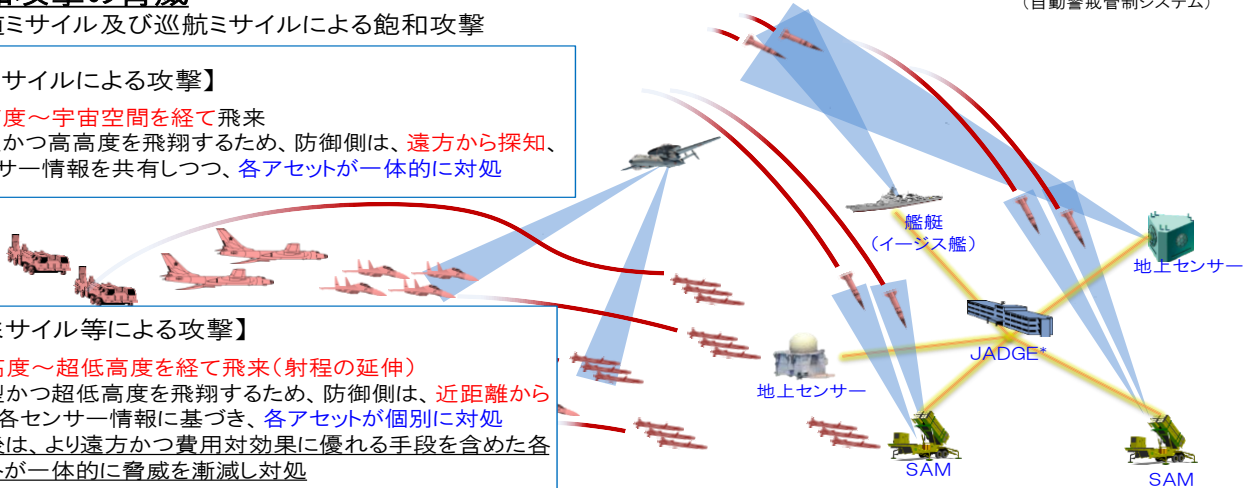
* JADGE: Japan Aerospace Defense Ground Environment (自動警戒管制システム)

【弾道ミサイルによる攻撃】

- 高高度～宇宙空間を経て飛来
- 小型かつ高高度を飛翔するため、防御側は、遠方から探知、各センサー情報を共有しつつ、各アセットが一体的に対処

【巡航ミサイル等による攻撃】

- 低高度～超低高度を経て飛来(射程の延伸)
- 小型かつ超低高度を飛翔するため、防御側は、近距離から探知、各センサー情報に基づき、各アセットが個別に対処
- 今後は、より遠方かつ費用対効果に優れる手段を含めた各アセットが一体的に脅威を漸減し対処



(3) 深刻化する人口減少 「静かなる有事」とも言える人口激減社会

3 新たな防衛大綱に基づく航空自衛隊の取り組み

(1) 平成31年度以降に係る防衛計画の大綱について(概要)

多次元統合防衛力の構築

(2) 領域横断作戦(クロス・ドメイン・オペレーション)

新たな領域と従来の陸海空領域の能力を領域横断的に融合

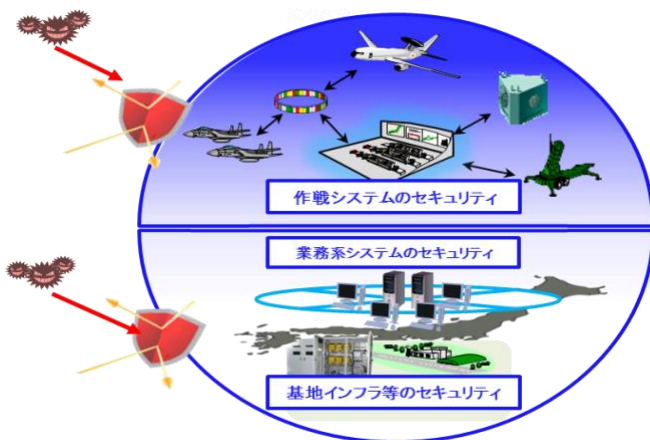
(3) 新たな領域への対応



航空自衛隊の将来体制の方向性②

新たな領域(サイバー)への対応

空自が利用するサイバー空間の安全性を確保するための能力の強化



空自の任務遂行を確実にするため、空自が依拠するシステムについて、抜けのない防護体制を構築

宇宙：宇宙空間での監視能力を獲得し、安定的な宇宙利用に寄与

電磁波：相手の優位を減殺するための能力の獲得・強化

(4) 新たな機能の獲得

STOVL機、スタンドオフミサイル、無人機の導入

(5) 新たな地域への対応

太平洋側の広大な空域を含む我が国周辺における防空態勢

(6) 多様化する任務への対応と人的戦力の最適化

隊員のマルチロール化、女性の活用、省人化・無人化 等

(7) 航空自衛隊の将来体制

宇宙領域専門部隊、無人機部隊

4 航空自衛隊の進化に向けて

- 新大綱・中期防に基づき、**従来にはなかった領域、機能、地域**における能力の獲得に挑戦し、新たな航空自衛隊として改革や改編よりも更に踏み込んだ**進化**を成し遂げる
- 今後、**前例のない難問や困難**に多々直面する事が予想される。**従来の考え方に捕らわれることなく**、知恵を出し、創意工夫をもって、国民の生命・身体・財産、我が国の領土・領海・領空を守るため**一丸となって任務に邁進**する所存



第82回定例会

演題「歴史的経緯に基づく中国の本質－我が国は中国とどのように付き合うのか」

講師：頭山興助氏 呉竹会会長

令和元年6月6日(木) 18:30～ 於：銀座カフェ・ジュリエ



当会は6月6日何時もの銀座カフェ・ジュリエにて、講師に「呉竹会」会長 頭山興助氏をお招きして表題についてのご講演をいただきました。「呉竹会」は「しなやかな竹の精神を復権する事を目標にアジアとの受発信センターの立場を築き日本人の意識覚醒を図る活動を展開することを目的」とした全国的規模の団体です（以上同会のパンフレットによる）。講演者の頭山氏は同会がその精神を受け継ぐ戦前の団体玄洋社の頭山満翁の孫にあたられます。当日は番外編として「日本ウイグル連盟会長」のムハメット氏の挨拶、スピーチもあり通常の募集定員数をはるかに超える50人弱の参加者を得て、懇親会も大変賑やかに終了致しました。

御講演要旨

1 歴史的経緯に基づく中国の本質

我が国は歴史的に中国大陸とは深い関係を保ってきており、特に明治以降の近現代において欧米の覇権主義に共に手を携えて対応しようとしたが、我々の先人達は結局中国に裏切られてしまった歴史的事実を正しく認識する必要がある。

(1) 自分達の都合で歴史話を作り出す中国人。

『ウイグル民族を「危険対象」にして、毛沢東から習近平独裁を続ける為に今も続く「南京大虐殺」のインチキ話とウイグル民族大虐殺。今日も中国でウイグル人の誰かが殺されている。今こそ日本人は大地に立ち、あの苦難な時代を戦い抜いた祖先のプライドを誇りとして、核保有国が作り上げたフェイクヒストリーに日本人ひとりひとりが惑わされる事なく、ウイグル、の現実を見つめ、学んでもらいたいと思う。ウイグル、南モンゴル、チベットの悲しみを一人でも多くの日本人が理解できた時、日本人が真の日本人の哀しさを理解できる日が来ると思う。』

頭山興助



ウイグル人はかつて東トルキスタン共和国という国を持っていた。今、中国は、そんな国はない、彼らを中国人の中の少数民族だとしてチベット人に対すると同様に弾圧を加えている。毛沢東から習近平に至るまで捏造された「日本軍による南京大虐殺」を言い続けるが如く、ウイグル人はテロリストだとして弾圧を加えている。

ウイグルの独立運動家 トゥール・ムハメット氏

日本在住24年のウイグル人 2009年にウルムチ大虐殺事件があり、東トルキスタンの共和国(所謂、「新疆ウイグル自治区」として中国政府の侵略下にある)の首都ウルムチで平和的デモに

中国軍が発砲し数千人規模の犠牲者を出した。以来多くの漢人がウイグルに入り、一方 20 万人以上のウイグル人女性が中国に移住させられた。現在中国では 300 万人強のウイグル人が強制収容所に入れられているといわれる。同氏の家族も行方不明であり、広く日本人に理解と協力を求めている。

(2) 中国にあるのは国ではなく共産党

国共内戦終結以来中国にあるのは国軍ではなく共産軍であり独裁者の私兵である。今日現在も尖閣諸島の領海線ぎりぎりに潜水艦を航行させている。共産党の為なら軍は国際法や国際常識は平気で無視している。ウイグルのみならずチベット、南モンゴル、香港、台湾そして日本に対し全て然り、今こそこれらの心ある人は団結して中国に対抗すべきであろう。

(3) 西欧によるアジア支配からの解放に努力した日本

明治開国以来の玄洋社、黒龍会は西洋植民地の桎梏に喘ぐ東洋の多くの独立の志士を支援した。朝鮮の金玉均（朝鮮王朝の刺客により暗殺され、遺体は朝鮮に持ちかえり 6 か所で晒された）、後に辛亥革命を成した孫文、インド独立の志士ラス・ビハリ・ボース、フィリピンのリカルテ將軍などを同じアジア人として支援してきた。当時、日本政府はイギリスと同盟を結んでおり、これら玄洋社、黒龍会の行動に弾圧を加えていた。しかし日本の教育はその事実を全く教えていない。ボースに関しては中村屋の長女俊子さんと結婚して新宿に今も残る中村屋のカレーライスが僅かに記憶されているのみである。

2 我が国は中国とどう付きあうのか

『近い将来、必ず中国の習近平は尖閣、沖縄に対して台湾を自国の領土だと言うが如く 70 年前の中国が国共内戦時、アメリカによって作られた日本国憲法の尻馬に乗る。世界に対し軍事力を背景に国連各国に「中国沖縄」「中国尖閣」と怒鳴りつつ、周辺の海底燃料、海洋資源を漁り軍事拠点を作り続けていくだろう。中国は覇権主義の国である。』 頭山興助

(1) 中国共産党は日本を虎視眈々と見定めている。

ウイグル、内モンゴル、チベット、台湾、そして沖縄-日本を狙っている。我々は何時迄も平和呆けしていないで、一日も早く外国製の憲法を廃止し、独立国としての体制を整えなければならない。

(2) 水資源

『日本人は水が石油以上の価値があることをわかっていない。中国は言う。

「台湾、ウイグル、チベットなどという国は無い、皆我が国の一部である」

「尖閣諸島も我が国の領土だ」

日本の軍事無知がついに北に核と大陸間弾道ミサイルを持たせてしまった。

日本の領海、領空は中露韓に囲まれた北朝鮮にとってまたとない「ミサイル打ち放題の実験場」となっているのである。

我が政府では、日本人の生命、財産をこれでも守っていると言えるのだろうか。

このままでは近い将来、緑の日本列島は中国の重要な水源地になる。

中国の水道水が飲めない水だと、中国旅行をされた方はおわかりだと思ふ。

日本は水戦争の標的とも言えるのだ。』

頭山興助

(世界中で水道水がそのまま飲める国は非常に限られている。) 日本は中国にとって水資源の標的となるだろう。

(3) 米中対決

今や米中対決が世界情勢の要になっている。我が国はこの事態の中で過去の教訓を生かして立場を明確にして世界平和と我が国益を追求していかなければならない。

『アメリカと中国の代理戦争がかつての国民党、共産党の内戦以来、久々に今また朝鮮半島で始まろうとしている。地理的名称は洋の東西を問わず軍事マターである。従軍慰安婦像、南京大虐殺記念碑、北の拉致、尖閣、靖国問題どれを取っても坂本龍馬の万国公法(国際法)に認められた正規軍をもって交渉に当たらねば解決する問題は一つもない。こんな事で日本がいつまで成金国家でいられるのか果たして疑問だ。』 頭山興助

まとめ

明治維新以来とりわけ日清戦争の後日本にはピーク時2~3万人ともいわれている多くの支那人その他が留学してきた。多くの西洋からの文化・技術は日本を経由して中国に取り入れられた。孫文は多くの日本政府・民間人(頭山満もその一人)の支援を得て辛亥革命を成し遂げたが現在の中国人は全く感謝もしていないし日本人は殆ど知らない。その後の「侵略戦争」をあげつらうだけだ。東シナ海の海底ガス田開発も「共同」で行う約束だったのを無視し勝手に一方的に進めている。

中国人は子供を育てる時「人に騙されてはいけないよ」と教える。日本人なら「人をだましてはいけないよ」と教える所だ。中国人には騙される方が悪いのだ。この認識の違いをよく頭に入れて中国人とはつきあっていかねばならない。



事務局からのお知らせ

本年度も最終月となりました。この一年間、皆様のご協力のもと6回の定例会及び3回の研修会を実施することができました。また、本年度は「認定NPO法人」の資格を得るという大きな目標に向かって周到な準備を行い、去る4月末に無事東京都へ申請を行いました。これから都庁の当該部署にて審査が行われ、秋以降には当会事務所に監査が入ることになっております。無事に審査が通れば、来年度中の認定取得完了となります。当会が飛躍をするための重要なステップとして引き続き皆様のご理解、ご支援をお願いします。

前回のレポートにも触れましたが、会員相互の交流の更なる向上を目指すべくホームページの充実を図っています。会員からの体験レポートなど、相互の共有を増進するために皆様から寄稿していただくことを期待しています。また、当会の存在、定例会などの案内の拡散に是非ご協力をお願いいたします。

今後の予定

① 第83回定例会

「我が国の歴史における元号の意義」 國学院大学名誉教授 大原康男氏

日時：7月4日(木) 於：銀座カフェ ジュリエ

② 第32回研修会

8月(期日未定) 潜水艦研修 海上自衛隊-横須賀

③ 第11回定時総会 記念講演「我が国の食文化と捕鯨」(仮題) 八木景子監督

日時：9月7日(土) 於：水交会

※全て、原則メールにてお申し込み下さい。

年会費お振り込みのお願い

年会費未納の方は、至急お振り込み下さい。

1. 機関誌をメールで受け取る会員 年会費2,000円に加え、ご賛同いただける場合は1口1,000円以上の寄付
2. 機関誌を郵送で受け取る会員 年会費2,000円+送付料2,000円に加え、ご賛同いただける場合は1口1,000円以上の寄付

年会費お振り込み先

① ゆうちょ銀行

(ゆうちょ銀行からの振り込みの場合) 記号10380 番号 92589171

(ゆうちょ銀行以外からの振り込みの場合) 店番 038 普通預金 口座番号 9258917

名義 特定非営利活動法人 日本を護る会

② 三井住友銀行

三井住友銀行 店番号 516 普通預金 口座番号 74410697

名義 特定非営利活動法人 日本を護る会

日本を護る会・レポート 第35号 令和元年6月発行

編集発行: 特定非営利活動法人 日本を護る会

HP: <http://awake-japan.sakura.ne.jp> E-mail: awake-japan@googlegroups.com